

鶴の子



千葉県立鶴沢小学校
学校だより
5月号
令和7年5月2日

「むごくない教育」を目指して

校長

新緑の美しい季節になりました。鶴沢小のシンボルツリーの落羽松(ラクウショウ)も3週間前の入学式のころは、枝先がかすかに緑色にけぶるような感じてましたが、今では青々とした葉を茂らせ、日ごとに力強さを増し、その生命力に圧倒されそうです。

しかし、鶴の子たちも負けてはいません。登校時間に校門近くで子供たちを迎えていると「おはようございます!」と元気な声で挨拶をして通ります。手を振りながら、あるいは立ち止まって頭を下げながら挨拶をする子も多く、爽やかで活気に満ちた朝の風景となっています。

先日興味深い話を知りました。戦国武将の今川義元の「むごい教育」についてです。有名な内容とのことで、ご存知の方も多いかもかもしれません(私は初めて知りました)。

のちに江戸幕府を開く徳川家康は、幼少期を人質として今川義元のもとで過ごします。義元は家来に竹千代(家康の幼名)には「むごい教育」を施すよう命じます。家来は「むごい教育」とは厳しく鍛えることだと解釈し、早朝から武芸や学問に励ませたそうです。あまりにくたくたになった竹千代は夕方には厠でしゃがめないほどだったそうです。しばらくして義元は家来に「竹千代の教育はうまいっているか」と尋ねます。家来は自信満々で「もうばっちり『むごい教育』をしています。起床すると行動はすべて駆け足、食事は粗食、休憩は最低限で、水練、剣術、槍術、馬術、学問に励ませ、まるで修行僧のようです。」と報告します。それを聞いた義元は「それは『むごい教育』ではない。」と怒り、「私の意図がちっともわかっていない。『むごい教育』とは、竹千代にぜいたくな食事をさせ、寝ただけ寝させ、夏は暑くないように冬は寒くないようにしてやり、武術や学問が嫌だと言ったら無理にやらせない、本人の望むとおりに何でも与えてやることだ。そうすれば、大抵の人間はだめになる。」と説明しました。義元は竹千代が成長して、自分を脅かす存在になることを恐れて、つらいことにすぐに弱音を吐く、気力のない人間にしようと考えたのです。

現代と戦国時代では状況が違いますし、私たちは武将を育てているわけではありません。しかし、この義元の「むごい教育」の話は、大きなヒントを含んでいるのではないのでしょうか。私たちは、子供たちにこれからの時代を生きていくために、目先のことだけにとらわれずに自分の頭で考え、多少のことではくじけない丈夫な心と身体を育てたいと考えています。

そのためには子供の要求を通すだけでなく、その様子や心の中をよく見て、時には厳しく、時には丁寧な指導することが私たち大人に求められているのだと考えます。決まりや挨拶の意義を教え、感謝や我慢する心を育てていくことの大切さを改めて感じました。「むごい教育」にならないよう、一人一人の子供たちのよりよい成長のために学校と家庭とが手を取り合って取り組んでいきたいと思ひます。





掲載割愛

子どもにここをサポートについて

千葉市教育委員会では、学校におけるいじめや体罰、性的ないやがらせ、家庭内での虐待などの問題に対応するために、千葉市の小学校・中学校・中等教育学校・特別支援学校・高等学校の児童生徒に「子どもにここをサポート」の手紙相談の用紙（切手不要）を配付し、子どもをめぐる様々な問題の解決に取り組んでいます。相談用紙は年4回（4月、7月、10月、12月）学校を通して配付しています。また、児童生徒がいつでも相談できるように学校の所定の場所や千葉市の公民館にも置いてあります。千葉市教育委員会のホームページから相談用紙をダウンロードすることもできます。なお、児童生徒からの電話での相談も受け付けています。本事業についてお子様にご紹介ください。

自転車の安全利用について

自転車は、小さな子どもからお年寄りまで、だれもが利用するととても便利な乗り物ですが、自転車は「車両」です。自転車乗車中の交通事故はとても多く発生しており、転倒による頭部損傷により、命が奪われる事故も後を絶ちません。命を守る備えとして、自転車に乗る際はヘルメットの着用を促してください。自転車事故をなくすため、交通ルールやマナーを守って利用しましょう。

大雨時の対応について

今年も本格的な雨の時期を迎えます。気象警報等発表時の登校については、4月にお便りでお知らせしましたが、お子様の安全安心に向け改めて対応をお伝えします。

- 本校の学区内に「基礎調査予定箇所」「洪水浸水想定区域（計画規模）」があります。そのため、午前7時の段階で、千葉市に「避難指示」が継続中の場合「臨時休業」となります。
- 『暴風警報』『暴風雪警報』『特別警報』以外の大雨・大雪等の警報発表時は、ご家庭の判断で登校させてください。保護者の判断で登校を見合わせた場合は、欠席や遅刻とはなりません。
- 登校後「避難指示」が発表され、下校時も継続の見通しとなった場合は、「すぐーる」で引渡し等のお知らせをした上で、安全な下校対応をします。

生命（いのち）の安全教育月間について

千葉市は、子どもたちが性暴力の加害者や被害者、傍観者にならないための教育や啓発の充実を進めています。毎年4・5月を「生命（いのち）の安全教育月間」として、子どもたちに生命の尊さや素晴らしさ、自分や相手を尊重し大事にすること、一人一人が大切な存在であること等を伝えます。本校でも、学年段階に応じた指導をしていきます。